第3回やくの高原活性化あり方検討会 議事録

開催日時:2024年12月26日 14時~16時

開催場所:福知山市役所 夜久野支所

出席者:下表のとおり

委員

氏名	所属
日和 英之	上夜久野自治会長会代表
足立 静雄	中夜久野自治会長会代表
上田 博康	下夜久野自治会長会代表
小田垣 裕一	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川 伸二	夜久野みらいまちづくり協議会
衣川 裕次	夜久野みらいまちづくり協議会
木村 昭興	福知山公立大学 教授
足立 聖忠	福知山観光協会 副会長
坪倉 康孝	森の京都DMO 地域開発部長兼ゼネラルプロデューサー
村尾 俊道	WILLER TRAINS株式会社 沿線交通リデザインプロジェクトチーム (元京都府交通基盤整備推進監 NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾 理事長)
居合 真志	市民公募委員
稲垣 江利子	市民公募委員
衣川 泰広	市民公募委員
松崎 沙弥加	市民公募委員

オブザーバー (Web参加)

氏名	所属
大西 民男	国土交通省近畿地方整備局 福知山河川国道事務所長

福知山市

氏名	所属
山本 美幸	福知山市地域振興部長
森田 哲也	福知山市地域振興部理事
西野 肇	福知山市市長公室地域振興政策監
中島 美香	福知山市地域振興部夜久野支所長
井上 智行	福知山市地域振興部夜久野支所地域振興係長

1. 活用プラン案の説明

京都総研コンサルティングより、第 2 回検討会で出てきた委員の意見(付箋)の取りまとめ内容、他地域での地方創生の事例、やくの高原活性化検討についての活用プラン案について説明後、木村委員長の進行の下、質疑応答ならびに意見交換を行った。

<委員>

・A 社～D 社からの活用案は皆さんが本気で取り組もうとされているものとの認識で良いか。

<京都総研コンサルティング>

・事業者から活用したいと明確な意思表示いただいたのが配布資料 13 頁の 4 案であり、どの事業者も本気との認識である。

<委員>

・どの業者も現在の温泉入浴施設は再開しないところが共通しており、注目すべき点である。

<委員>

・どの事業者の活用案も良いところがあるので、それらを一つずつ選んで新しい活用案を考えるのも良いのではないか。

<委員>

・エビを使った活用案は実際のところ上手いくのか。

<京都総研コンサルティング>

・京都の事業者で、静岡県で日本最大規模のエビの養殖を行っているところもある。エビの養殖だけをみるともっと実力のある事業者はいるが、これはほぼ工場のイメージである。

・A 社は養殖で稼ぎたいとの考えであり、D 社はファームガーデンやくのの規模で採算性を上げるのは簡単ではないので、エビを釣ったり体験のイメージで考えている。エビじゃなくても良いとは聞いているが、手長エビの釣り体験などアトラクションとして楽しめるものをイメージされている。

・D 社はエビを養殖する際に、温泉水の湯温が 26 度～27 度であれば冬に温め直さずに済むことにメリットを感じ、温泉をどう使うかというところからスタートしている。もっと湯温が高ければ今後活用する可能性はあるかもしれない。

<委員>

・地域で使うというよりは、地域外から人を呼び込んで活性化していくということになるのか。

<京都総研コンサルティング>

・B 社／C 社の活用案は食品加工場であり、地域で使うイメージ近いが、A 社と D 社は地域外から人を呼び込む活用案である。

<委員>

- ・民間事業者として活用するならばこの活用案というのを示したものであり、この中から事業者を選ぶものではないと認識している。
- ・A社とD社は地域外の人を対象とした事業、B社とE社は地域内の人を対象とする事業を展開するとの提案があったと理解している。各社とも投資が必要になり、その際には行政負担も検討が必要であるので、地域として納得のいく投資をどのような理屈でお金を出していくか、今後議論していくこととなる。誰のための施設で、誰がどう使い、どう維持していくのか議論していく必要がある。

<委員>

- ・今回の配布資料は、地元の人が受け入れられるもの、受け入れられないものの意見を引き出すためには良い資料である。一方で現実性については、条件を提示しないと事業者も詳細な計画を作れないので、現時点ではアイデアベースでとらえた方が良さそう。
- ・賑わい施設を提案した事業者から、やくの高原の認知度が低いことを示されていないのは残念である。このままでは人を呼び込むのは難しいと思うので、今後この観点をどうするか地域としても考えていく必要がある。

<委員>

- ・A社とD社の活用案は少しリスクがあるように感じた。A社は今までにない事業に設備投資した後に持続できるのか。
- ・B社／C社とE社の活用案には、面白いものがあると感じた。B社／C社の活用案には派手さはないが、それほど初期投資に費用をかけずに、持続的に地域の魅力を発信つづけられるのではないかと。
- ・D社の活用案は楽しい体験施設をつくる案であるが、複合的施設であり初期投資の費用がかかる感じがした。実現するのであれば、市内の小学生や保育園が年間を通じてここを利用したくなる内容にできれば良いだろう。地域の思い出作りや経験などにつなげて、地元で愛される施設にしていけたら良いのではないかと。

<委員>

- ・今回の活用案の中で、スッと受け入れられたのはD社の活用案である。やくの高原の活性化、賑わい創出の点で面白いと感じた。

<委員>

- ・各社の活用案を見て、本当にやくの高原の魅力を引き出そうとしているスペシャルな活用案はないと感じた。今ある地域資源をスペシャルなものにする必要がある。
- ・E社の若者、子どもたちの学びの場とする考え方は良いと思う。ここに住むというわけではな

いだろうが、朝来市、福知山市、綾部市から親子で遊びに来るニーズはあるだろうし、これをきっかけに関係人口を増やし、夜久野の魅力を発信できれば良い。

<委員>

- ・夜久野以外でもできること、夜久野でないとできないことを考えていく必要がある。
- ・どの活用案もファームガーデンやくのの施設をどうするかといった感じに見える。西の玄関口として、くの高原エリアが将来的にどうなっていくのか展望を活用案に盛り込んでいってほしい。

<委員>

- ・どの活用案も温泉施設とはかけ離れた活用案であるので、地元の人が受け入れられるのか。地元としては温泉を活用してほしいとの認識である。

<委員>

- ・事業者は利益がでないと継続できないので、地元が要望するものに近いところを色々な意見をふまえて、考えていく必要がある。ある程度方向性が決まったところで、地元の意見をあわせてよりよいものしていけたらと考える。
- ・温泉施設の継続はどの案も示されないなかで、市が補助することは難しいと思われるので、地元との合意形成が重要になるだろう。

<委員>

- ・収支・経済性については、福知山市による支援の有無次第で変わってくると思われる。
- ・提案された活用案には、地元住民が使いそうなアイデアがないように感じたので、ここにあって良かったという提案にしてほしい。
- ・市として、当初だけでなく行政施策として支援していく覚悟がないと、なかなか事業を開始できないのではないかと。
- ・どの案も既存施設をどうするかという提案になっており、大きなエリアで絵が描けるのであればお願いしたい。9号線を走る車から見て、寄ってみたいくなるような雰囲気にしていただきたい。

2. 活用プラン案の説明

委員より、地域が考えるファームガーデンのあり方についての資料説明があり、委員長の進行の下、質疑応答ならびに意見交換を行った。

<委員>

- ・検討会のまとめがどのような形になるのか教えていただきたい。具体的な施設名や活用内容を書き込んだ形になるのか、方向性だけを定めるのか。

<委員長>

- ・今回の検討委員会では方向性を示すことになる。A案～E案まで紹介したが、この事業をするのかは別の話で、この体験施設が提案あるからこれを行うのではなく、今後の委員の皆さんの意見をいただきながら、最終的な民間事業者の公募に向けてブラッシュアップしていく。

<委員>

- ・世界一のトイレなどシンボルがあることは良いと感じた。立寄地である一方で滞在地でもあるように思う。立寄地によって滞在時間に幅があるので、このコンセプトがしっくり来るになると、立寄地としての時間イメージと設置案がまとまってくるのではないかと。
- ・事業を持続するためには収益があってはじめて、住民サービスや施設の発展につながると考えるが、コンセプト1はキャンプ場との認識で良いか。

<委員>

- ・住民アンケートのなかでキャンプやグランピングをしたいとの意見が多かったので、全体図の「枝垂れ桜プロムナード」エリアの隣接地にキャンプエリアを作るイメージである。なお、このエリアは現在、緑化センターが管理しているので、具体的なところはまだ言えないがキャンプ場は作りたいと考えている。

<委員>

- ・足湯もお金を取りにくいので、収益事業とするならばキャンプ場かと考える。

<委員>

- ・採算性があることは外せないなので、こういったところであれば採算が取れるのか住民レベルからすると教えていただきたい。

<委員>

- ・立寄ピーク時間も大事である。長野県阿智村の「星空ナイトツアー」が10代、20代に人気のように、夜間の管理コストと需要のバランスをふまえたピークの持っていく方と立寄地としての立寄時間のイメージがあると面白いのではないかと。
- ・観光協会としても、お土産を買えるところがなかなかしっくり来ていないので、こういう施設ができれば良いなと思う。

<委員長>

- ・今後の進め方については、A～E社の活用案と地域の意見を上手くマッチングさせながら進めていきたい。

<委員>

- ・委員からの配布資料のなかで、子育てスペースがあるのは良いと思う。子育てスペースがあることによって、夜久野に子育て世帯が移住したり、夜久野に家を建てる人につながるのではないかな。

<委員>

- ・委員からの配布資料のなかで、西の玄関口とあるが、国道9号線を走っていたらいつのまにか京都府に入っている位の感覚であり、誰も西の玄関口として意識して走っていない。従来型のドライブインがなくなったのはコンビニがたくさんできて、トイレに行く用事などでわざわざ立ち寄る必要がなくなったので、道の駅を前提とした活用は限界に来ている。
- ・よそ者を相手にして誰が喜ぶのかを考えていけないといけない。本当に地元の人達が自分達で使いたいと思える施設をどのようにみんなで作っていくのかにフォーカスすべき。そのためには現在、地域が困っている課題に少しでも役に立つ施設であって、地域のためになるものを作るという視点で議論していきたい。

<委員長>

- ・温泉施設の活用については大きく2点に整理できる。入浴施設の維持はコストがかかり限界があるので、入浴施設以外の方法で検討していかなければならない。一方で、活用案として「体験」が一つのキーワードになってくるので、これらをふまえるとD社の活用案が今回会議の落としどころと考える。
- ・収益性を考えると、ボイラーの改修費があるなかでエビの養殖は安定した収益にできるのか不安な面がある。独立採算を目指していくのであれば、委員の提案もふまえながら、D社の活用案が一つの方向性になる。

<委員>

- ・D社の活用案にB社/C社の活用案が加わると良くなるのではないかな。D社案は複合的施設のイメージであり、B社/C社案の食品加工場のアイデアをブラッシュアップして、地元産のものを強化し、売る力とサービスの提供による複合的施設するといいいのではないかな。

<委員長>

- ・初期投資はかけないといけないが、採算性でいえば、D社の活用案は持続的な運営において理想的な提案とみている。

<委員>

- ・各社の提案は建物ごとやエリアを区分しての発想ではないが、費用面についてもこの部分は市が負担するなど決めず、全体の運営や費用負担を1社が担う形で進めていくことに

なるのか。

<委員長>

- ・最終的な報告に基づいて、詳細部分を新たに検討していくことになる。検討委員会ではあくまで方向性を定めていくものである。

<委員>

- ・温泉施設については、市は直営で運営するという発想はないとの認識で良いのか。

<委員長>

- ・直営しないという方向で聞いている。
 - ・温泉施設に関しては入浴以外の方法で温泉を活用していくこととなる。D社の活用案を方向性とし、次回さらにブラッシュアップしていく形で進めていきたい。
- 詳細な内容や細かい部分については第5回までにはたどり着かないと思うが、委員の皆さんの意見を聞ながら進めていく。

3. その他

- ・事務局より、第4回会議(1月30日(木)14時より夜久野支所にて開催)の案内。

以上